



瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

待降節第 3 主日 C 年 (2024 年 12 月 15 日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：ゼファニヤ書 3 章 14 — 17 節

第二朗読：フィリピの信徒への手紙 4 章 4 — 7 節

福音朗読：ルカによる福音書 3 章 10 — 18 節

今日の第一朗読の前半は、地上に呼びかける天使の言葉です (14 — 15 節)。後半は、その呼びかけに応える人々の叫びです (16 — 17 節)。

たくさんの喜びに関する言葉が登場します。神さまに対する人の喜び (14 節)。人に対する神さまの喜び (17 節) に分けられるでしょう。

第二朗読では 4 節の「喜びなさい」に注目しましょう。喜ぶは、原文ではカイローといえます。『フィリピの信徒への手紙』には 9 回登場します。そのうちの 4 回は「主において」という前置詞句と共に使われます。4 節で、「喜びなさい」と繰り返されます。文法的には時制は現在で命令形ですが、アオリスト形ではないところから、一回きりではなく、ずっと喜びなさいという意味になります。さらに 6 節の「感謝を込めて」にもこころを留めましょう。原文はエウカリスティアーです。感謝の気持ち、感謝の表明となります。後に使徒教父の時代になりますと、この言葉は聖体祭儀を表すようになります。「喜ぶ」と「感謝する」は、ほぼ同義だと考えてよいでしょう。

福音朗読では 10 節に注目しましょう。「では、わたしたちはどうすればよいのですか」。ヨハネの説教によって燃え上がった悔い改めへの思いを抱いた群衆、徴税人、兵士たちが、ヨハネに問いかけます。ファリサイ派の人々とは異なって、断食とか祈りとか禁欲生活をヨハネは求めません。ヨハネの回答は、簡単に言えば貧しい人や助けを必要としている人に愛を注ぐというものです。「分けてやれ」、「同じようにせよ」(11 節)。「取り立てるな」(13 節)。そして「ゆ

すり取ったり、だまし取ったりするな」、「満足せよ」（14 節）。

徴税人やめろとか、兵士をやめて、清い生き方をせよとはヨハネは命じていないことを覚えておきましょう。職業の善し悪しをヨハネは語っていません。神さまからの求めである愛を注ぐことを日常の生活で実践しろと命じているのです。

17 節は、当時の農業の働き方を知らない、ピンと来ない節かもしれません。

日本で箕^みという、穀物の脱穀^{こくもつ だっく}、選別^{せんべつ}、調整、運搬に使用される農具のことです。使い方は、穀物や豆類などを入れ、両手で縁^{ふち}を持って揺り動かし、風にあおりながら穀物と塵埃^{じんあい}や籾殻^{もみがら}などを選り分けるために使います。ちなみにこの作業のことを「簸^ひる」と呼びます。

古代中近東の箕もそのようなものであったかどうかは不明です。しかし、農夫がわずかに巻き起こった風を利用して麦と殻とを分けるように、イエスさまが巻き起こす風の意味もある霊（ pneuma ）によって分け集められた民衆は、イエスさまによって始められた新しい祝福の時を生きるのです。

【ちょっとひと言】

第一朗読にある「ただ中にある」と、第二朗読にある「主において」を心に留めたいです。

現実の真ただ中に神はおられます。わたしのただ中に神はおられるのです。それは、パウロの表現を使えば「主に結ばれて」いるということです。ヨハネが要求したのは非日常的な行為ではありませんでした。まさに社会のただ中であって、隣人への愛に生きなさいとの要求でした。

農夫が箕を揺さぶって風を起こして選り分けるように、イエスさまは日常の生活の中で霊の風をわずかに巻き起こしてわたしたちを選り分けるのです。そうしますと、日常の生活の一コマ一コマがどれほど大切かが分かります。

お知らせ

ミサ後に「日めくりカレンダー」の販売をしています。

どうぞお買い求めください。